

評価項目		ループリックによるレベル評価						
記号	名称	0	0.5	1	1.5	2	2.5	3
a	基礎学力（数学）	数学の基本となる知識を習得できていない。	0と1の間	数学の基本となる知識と手法を習得しつつある。	1と2の間	数学の基本となる知識と手法を十分に身につけた。	2と3の間	数学の基本となる知識と手法を非常によく身につけた。
b	基礎学力（各分野の基礎）	各分野の基礎を習得できていない。	0と1の間	各分野の基礎を最低限の範囲で習得した。	1と2の間	各分野の基礎を習得しているといえる。	2と3の間	各分野の基礎を十分に習得した。
c	専門学力（代数学）	高いレベルの専門知識を獲得できていない。	0と1の間	高いレベルの専門知識を最低限獲得できた。	1と2の間	専門分野の理論を展開するために必要な高いレベルの専門知識を獲得した。	2と3の間	高いレベルの専門知識を十分に備え、かつそれを用いた理論の展開を行える。
d	専門学力（幾何学）	高いレベルの専門知識を獲得できていない。	0と1の間	高いレベルの専門知識を最低限獲得できた。	1と2の間	専門分野の理論を展開するために必要な高いレベルの専門知識を獲得した。	2と3の間	高いレベルの専門知識を十分に備え、かつそれを用いた理論の展開を行える。
e	専門学力（解析学）	高いレベルの専門知識を獲得できていない。	0と1の間	高いレベルの専門知識を最低限獲得できた。	1と2の間	専門分野の理論を展開するために必要な高いレベルの専門知識を獲得した。	2と3の間	高いレベルの専門知識を十分に備え、かつそれを用いた理論の展開を行える。
f	専門学力（応用）	問題を解決する能力が低い。	0と1の間	問題を解決する能力が少しある。	1と2の間	問題を解決する能力がある。	2と3の間	問題を解決する能力が高い。
g	基礎学力（諸分野の知識）	幅広い知識を習得していない。	0と1の間	ある程度の知識を習得した。	1と2の間	様々な知識を習得した。	2と3の間	幅広い知識を十分に習得した。
h	基礎学力（横断的俯瞰能力）	幅広い知識を習得していない。	0と1の間	ある程度の知識を習得した。	1と2の間	様々な知識を習得した。	2と3の間	幅広い知識を十分に習得した。
i	基礎学力（英語）	読解力と表現力が不十分である。	0と1の間	読解力と表現力が少し身についた。	1と2の間	読解力と表現力が身についた。	2と3の間	読解力と表現力は十分身についた。
j	プレゼンテーション・コミュニケーション能力	プレゼンテーション・コミュニケーション能力がたりない。	0と1の間	プレゼンテーション・コミュニケーション能力がまだ低い。	1と2の間	プレゼンテーション・コミュニケーション能力がある。	2と3の間	プレゼンテーション・コミュニケーション能力が十分に高い。
k	研究者倫理	倫理観が養われていない。	0と1の間	最低限の倫理観が養われている。	1と2の間	十分な倫理観を持っている。	2と3の間	高いレベルの倫理観がある。

評価項目		ループリックによるレベル評価						
記号	名称	0	0.5	1	1.5	2	2.5	3
a	数理的推論能力/コンピューター活用能力	物理学に必要な数理的推論や計算の能力がまったく不足している	0と1の間	物理学に必要な数理的推論や計算の能力が不十分である	1と2の間	物理学に必要な数理的推論や計算の能力があるが、ミスをすることがある	2と3の間	物理学に必要な数理的推論や計算の能力が十分あり、応用もできる
b	基礎物理学に関する問題解決能力	力学と量子力学の法則や、エネルギーと運動量のふるまいをほとんど理解していない	0と1の間	力学と量子力学の法則や、エネルギーと運動量のふるまいの理解が不十分である	1と2の間	力学と量子力学の法則を理解している	2と3の間	力学と量子力学の法則を理解し、さまざまな物理現象に応用できる
c	基礎物理学実験および科学実験に関する問題解決能力	電荷・電流・電磁場の性質をほとんど理解していない	0と1の間	電荷・電流・電磁場の性質の理解が不十分である	1と2の間	電荷・電流・電磁場・電磁波を十分に理解している	2と3の間	電荷・電流・電磁場・電磁波を十分に理解し、光学などに応用できる
d	電磁気学/光学/波動物理学に関する問題解決能力	熱・波動・物質の物理的な理解がほとんどできない	0と1の間	熱・波動・物質の物理的な理解が基本公式程度以下にとどまっている	1と2の間	量子力学や統計力学に関係づけて、熱・波動の干渉・原子分子の法則を理解している	2と3の間	量子力学や統計力学に基づいて、熱・波動・物質の法則を様々な物理現象に応用できる
e	熱・統計物理学・物性物理学に関する問題解決能力	学生実験や演習にきちんと取り組んでいない	0と1の間	学生実験と演習への取り組みを通じて身につけるべきことの一部に不十分なものがある	1と2の間	学生実験と演習に取り組んで、観察力、判断力や測定・解析法、表現法を身につけている	2と3の間	学生実験と演習を通じて身につけた観察力、判断力や測定・解析法、表現法を活用している
f	素粒子・原子核物理学および地球・宇宙物理学に関する問題解決能力	普及型汎用ソフトを用いたデータ整理やレポート作成などがほとんどできない	0と1の間	普及型汎用ソフトを用いたデータ整理やレポート作成程度しかできない	1と2の間	科学技術のための計算プログラム作成やデータ処理・表現ができる	2と3の間	コンピューターを活用して、物理現象のシミュレーションや高度なデータ処理ができる
g	先端物理学に関する基礎学力および科学倫理・環境科学に関する理解	不正防止や安全性・信頼性向上に無関心である	0と1の間	不正防止や安全性・信頼性向上に対する注意が不十分である	1と2の間	不正防止や安全性・信頼性向上に対する判断力をもっている	2と3の間	安全性・信頼性を判断し、その向上のための行動をとっている
h	物理実験学・卒業研究に関する問題解決能力	英語の基本知識が欠けている（例えばTOEICスコアが約300以下）	0と1の間	英語の運用能力が不十分である（例えばTOEICスコアが約450以下）	1と2の間	英語の運用能力がある（例えばTOEICスコアが約600以上）	2と3の間	英語の運用能力が十分ある（例えばTOEICスコアが約750以上）
i	英語および他の外国語の運用能力/国際性	コミュニケーションの能力が著しく不足している	0と1の間	コミュニケーション能力やその向上のための努力がまだ十分でない	1と2の間	異なる背景をもつ相手ともコミュニケーションをとる能力が向上している	2と3の間	相手の文化的背景の理解を活かして、国際的な場でも積極的に交流できる。
j	一般教養の習得とコミュニケーション能力および理科教育に関する能力	物理学以外の科学・文化・社会に関する素養がほとんど、身につけていない	0と1の間	物理学以外の科学・文化・社会に関する素養が十分とはいえない	1と2の間	科学・文化・社会に関する全般的素養が身につけている	2と3の間	身につけた科学・文化・社会に関する全般的素養をもとに、それらのかかわりについても考えを深めている

TUSルーブリック

(創域理工学部 情報計算科学科：2024年度新入生)

評価項目		ルーブリックによるレベル評価						
記号	名称	0	0.5	1	1.5	2	2.5	3
a	コミュニケーション能力 (国際性, 語学力)	学習・教育目標Aに対する取組が不十分である。	0と1の間	学習・教育目標Aを達成できるレベルにない。	1と2の間	学習・教育目標Aを達成できるレベルにある。	2と3の間	学習・教育目標Aを十分に達成できるレベルにある。
b	教養	学習・教育目標Bに対する取組が不十分である。	0と1の間	学習・教育目標Bを達成できるレベルにない。	1と2の間	学習・教育目標Bを達成できるレベルにある。	2と3の間	学習・教育目標Bを十分に達成できるレベルにある。
c	基礎学力 (専門)	学習・教育目標Cに対する取組が不十分である。	0と1の間	学習・教育目標Cを達成できるレベルにない。	1と2の間	学習・教育目標Cを達成できるレベルにある。	2と3の間	学習・教育目標Cを十分に達成できるレベルにある。
d	専門学力	学習・教育目標Dに対する取組が不十分である。	0と1の間	学習・教育目標Dを達成できるレベルにない。	1と2の間	学習・教育目標Dを達成できるレベルにある。	2と3の間	学習・教育目標Dを十分に達成できるレベルにある。
e	問題発見および解決能力	学習・教育目標Eに対する取組が不十分である。	0と1の間	学習・教育目標Eを達成できるレベルにない。	1と2の間	学習・教育目標Eを達成できるレベルにある。	2と3の間	学習・教育目標Eを十分に達成できるレベルにある。

評価項目		ループリックによるレベル評価						
記号	名称	0	0.5	1	1.5	2	2.5	3
a	一般教養学力	該当する科目に関する基礎的な知識や能力に欠ける。(評価D相当)	0と1の間	該当する科目に関する最低限の基礎的知識や能力を習得している。(評価C相当)	1と2の間	該当する科目に関する基礎的知識や能力をほぼ習得している。(概ね評価A-B相当)	2と3の間	該当する科目に関する基礎的知識や能力を習得していて、実際に活用できる。(概ね評価S-A相当)
b	外国語学力	該当する科目に関する基礎的な知識や能力に欠ける。(評価D相当)	0と1の間	該当する科目に関する最低限の基礎的知識や能力を習得している。(評価C相当)	1と2の間	該当する科目に関する基礎的知識や能力をほぼ習得している。(概ね評価A-B相当)	2と3の間	該当する科目に関する基礎的知識や能力を習得していて、実際に活用できる。(概ね評価S-A相当)
c	専門基礎能力	専門基礎分野に関する基礎的な知識や理解に欠ける。(評価D相当)	0と1の間	専門基礎分野に関する最低限の基礎的な知識や能力を習得している。(評価C相当)	1と2の間	専門基礎分野に関する基礎的知識や能力をほぼ習得している。(概ね評価A-B相当)	2と3の間	専門基礎分野に関する基礎的知識や能力を習得していて、実際に活用できる。(概ね評価S-A相当)
d	専門応用能力	専門応用分野に関する基礎的な知識や理解に欠ける。(評価D相当)	0と1の間	専門応用分野に関する最低限の基礎的な知識や能力を習得している。(評価C相当)	1と2の間	専門応用分野に関する基礎的知識や能力をほぼ習得している。(概ね評価A-B相当)	2と3の間	専門応用分野に関する基礎的知識や能力を習得していて、実際に活用できる。(概ね評価S-A相当)
e	実験遂行能力、論理的思考力、研究倫理の理解	実験技術等の実践的能力や論理的思考力が身につけていない。問題の解決・解明に向けた努力が出来ない。(評価D相当)	0と1の間	実験技術などの実践的能力や論理的思考力を最低限習得している。問題の解決・解明に向けて、指示に従って努力できる。(評価C相当)	1と2の間	実験技術などの実践的能力や論理的思考力をほぼ習得している。問題の解決・解明に向けて、目標を設定して努力出来る。(概ね評価A-B相当)	2と3の間	実験技術などの実践的能力や論理的思考力を十分に身につけている。問題の解決・解明に向けて、目標を設定して努力出来る。結果の評価を行うことができる。(概ね評価S-A相当)
f	コミュニケーション能力、表現力	該当する科目で求められた表現力やコミュニケーション能力、国際性に関する能力が身につけていない。(評価D相当)	0と1の間	該当する科目で求められた表現力やコミュニケーション能力、国際性に関して、初歩の能力を習得している。(評価C相当)	1と2の間	該当する科目で求められた表現力やコミュニケーション能力、国際性に関する能力をほぼ習得している。(概ね評価A-B相当)	2と3の間	該当する科目で求められた表現力やコミュニケーション能力、国際性に関する能力を習得していて、実際に活用出来る。(概ね評価S-A相当)

評価項目		ルーブリックによるレベル評価						
記号	名称	0	0.5	1	1.5	2	2.5	3
a	基礎学力	基礎学力は不十分である	0と1の間	必要最低限の基礎学力を有している	1と2の間	標準的な基礎学力を有している	2と3の間	十分な基礎学力を有している
b	基礎教養能力	基礎教養能力は不十分である	0と1の間	必要最低限の基礎教養能力を有している	1と2の間	標準的な基礎教養能力を有している	2と3の間	十分な基礎教養能力を有している
c	建築基礎能力	建築基礎能力は不十分である	0と1の間	必要最低限の建築基礎能力を有している	1と2の間	標準的な建築基礎能力を有している	2と3の間	十分な建築基礎能力を有している
d	建築専門知識・能力(計画・設計系)	建築専門知識・能力(計画・設計系)は不十分である	0と1の間	必要最低限の建築専門知識・能力(計画・設計系)を有している	1と2の間	標準的な建築専門知識・能力(計画・設計系)を有している	2と3の間	十分な建築専門知識・能力(計画・設計系)を有している
e	建築専門知識・能力(材料・防災系)	建築専門知識・能力(材料・防災系)は不十分である	0と1の間	必要最低限の建築専門知識・能力(材料・防災系)を有している	1と2の間	標準的な建築専門知識・能力(材料・防災系)を有している	2と3の間	十分な建築専門知識・能力(材料・防災系)を有している
f	建築専門知識・能力(構造系)	建築専門知識・能力(構造系)は不十分である	0と1の間	必要最低限の建築専門知識・能力(構造系)を有している	1と2の間	標準的な建築専門知識・能力(構造系)を有している	2と3の間	十分な建築専門知識・能力(構造系)を有している
g	建築専門知識・能力(環境系)	建築専門知識・能力(環境系)は不十分である	0と1の間	必要最低限の建築専門知識・能力(環境系)を有している	1と2の間	標準的な建築専門知識・能力(環境系)を有している	2と3の間	十分な建築専門知識・能力(環境系)を有している
h	コミュニケーション・プレゼンテーション能力(国際性、語学力、表現力)	コミュニケーション・プレゼンテーション能力は不十分である	0と1の間	必要最低限のコミュニケーション・プレゼンテーション能力を有している	1と2の間	標準的なコミュニケーション・プレゼンテーション能力を有している	2と3の間	十分なコミュニケーション・プレゼンテーション能力を有している

評価項目		ルーブリックによるレベル評価						
記号	名称	0	0.5	1	1.5	2	2.5	3
a	基礎学力（基礎科学）	学習・到達目標Aに対する取組が不十分である。	0と1の間	学習・到達目標Aに対して取り組んでいるが、目標を達成できるレベルに達していない。	1と2の間	学習・到達目標Aを達成できるレベルにある。	2と3の間	学習・到達目標Aを十分に達成し、得た知識を活用できるレベルにある。
b	基礎学力（専門）	学習・到達目標Bに対する取組が不十分である。	0と1の間	学習・到達目標Bに対して取り組んでいるが、目標を達成できるレベルに達していない。	1と2の間	学習・到達目標Bを達成できるレベルにある。	2と3の間	学習・到達目標Bを十分に達成し、得た知識を活用できるレベルにある。
c	専門技術（実験技術と考察力）	学習・到達目標Cに対する取組が不十分である。	0と1の間	学習・到達目標Cに対して取り組んでいるが、目標を達成できるレベルに達していない。	1と2の間	学習・到達目標Cを達成できるレベルにある。	2と3の間	学習・到達目標Cを十分に達成し、得た知識を活用できるレベルにある。
d	国際性（英語）	学習・到達目標Dに対する取組が不十分である。	0と1の間	学習・到達目標Dに対して取り組んでいるが、目標を達成できるレベルに達していない。	1と2の間	学習・到達目標Dを達成できるレベルにある。	2と3の間	学習・到達目標Dを十分に達成し、得た知識を活用できるレベルにある。
e	論理構成力・横断的思考力・課題発見力	学習・到達目標Eに対する取組が不十分である。	0と1の間	学習・到達目標Eに対して取り組んでいるが、目標を達成できるレベルに達していない。	1と2の間	学習・到達目標Eを達成できるレベルにある。	2と3の間	学習・到達目標Eを十分に達成し、得た知識を活用できるレベルにある。
f	教養・倫理観・コミュニケーション力	学習・到達目標Fに対する取組が不十分である。	0と1の間	学習・到達目標Fに対して取り組んでいるが、目標を達成できるレベルに達していない。	1と2の間	学習・到達目標Fを達成できるレベルにある。	2と3の間	学習・到達目標Fを十分に達成し、得た知識を活用できるレベルにある。

評価項目		ルーブリックによるレベル評価						
記号	名称	0	0.5	1	1.5	2	2.5	3
a	基礎学力	工学技術者として、また電気・電子・情報通信工学に関する専門知識・技術を身につけるためにそれらの基礎的知識を習得できていない。	0と1の間	工学技術者として、また電気・電子・情報通信工学に関する専門知識・技術を身につけるためにそれらの基礎的知識を概ね理解している。	1と2の間	工学技術者として、また電気・電子・情報通信工学に関する専門知識・技術を身につけるためにそれらの基礎的知識を理解し、多面的に物事をとらえることができる。	2と3の間	工学技術者として、また電気・電子・情報通信工学に関する専門知識・技術を身につけるためにそれらの基礎的知識を十分理解できている。
b	専門学力	電気・電子・情報通信工学の専門知識を理解していない。	0と1の間	電気・電子・情報通信工学の専門知識を概ね理解している。	1と2の間	電気・電子・情報通信工学の専門知識を理解し、多面的に物事をとらえることができる。	2と3の間	電気・電子・情報通信工学の専門知識を理解・活用し、工学技術者としての応用能力を身に付けるための素養ができていない。
c	外国語学力	英語を中心とする外国語の基礎知識を理解できていない。	0と1の間	英語を中心とする外国語の基礎知識を概ね理解している。	1と2の間	英語を中心とするコミュニケーション能力を高め、専門分野の英語文献および講義を理解し、論文作成、発表等ができる。	2と3の間	英語を中心とするコミュニケーション能力を高め、専門分野の英語文献および講義を理解・活用し、論文作成、発表等ができる素養を養うことができる。
d	一般教養学力	社会人として基礎知識を理解し、多面的に物事をとらえるために必要な能力と工学技術者として社会貢献できる能力を身につけていない。	0と1の間	社会人として基礎知識を理解し、多面的に物事をとらえるために必要な能力と工学技術者として社会貢献できる能力を概ね身につけている。	1と2の間	社会人として基礎知識を理解し、多面的に物事をとらえ社会貢献することができる。	2と3の間	社会人として基礎知識を理解・活用し、多面的に物事をとらえるために必要な能力と工学技術者として社会貢献できる素養を養うことができる。
e	情報処理能力	情報処理の基礎知識を理解していない。	0と1の間	情報処理の基礎知識を概ね理解している。	1と2の間	情報処理の基礎知識を理解し、多面的に物事をとらえることができる。	2と3の間	情報処理の基礎知識を理解・活用し、工学技術者としての専門能力を身につけることができる。
f	国際性	他者とコミュニケーションを取り、国際的な視野を持って活躍する基礎知識を理解していない。	0と1の間	他者とコミュニケーションを取り、国際的な視野を持って活躍する基礎知識を概ね理解している。	1と2の間	他者とコミュニケーションを取り、国際的な視野を持って活躍する基礎知識を理解し、多面的に物事をとらえることができる。	2と3の間	他者とコミュニケーションを取り、国際的な視野を持って活躍する基礎知識を理解・活用し、国際的な視野を持って活躍することができる素養を養うことができる。
g	論理的思考力	物事を結論と根拠に分け、多角的な視点から分析を行うために必要な基礎知識・専門知識を理解していない。	0と1の間	物事を結論と根拠に分け、多角的な視点から分析を行うために必要な基礎知識・専門知識を概ね理解している。	1と2の間	物事を結論と根拠に分け、多角的な視点から分析を行うための基礎知識・専門知識を理解し、多角的な視点から分析をおこなうことができる。	2と3の間	物事を結論と根拠に分け、多角的な視点から分析を行うための基礎知識・専門知識を理解・活用し、多角的な視点から分析を行う素養ができる。
h	協調性	他者と調和するために必要な能力を身につけていない。	0と1の間	他者と調和するために必要な能力を概ね身につけている。	1と2の間	他者と調和する際に、適切な行動を判断することができる。	2と3の間	他者と調和する際に、適切な行動と判断し、実行することができる。
i	計画・遂行力	計画・遂行するために必要な基礎・専門知識を理解できていない。	0と1の間	計画・遂行するために必要な基礎・専門知識を概ね理解している。	1と2の間	計画・遂行するために必要な基礎・専門知識を理解し、自主的に考察・学習する能力を養うことができる。	2と3の間	計画・遂行するために必要な基礎・専門知識を理解・活用し、自主的に考察・学習する能力を養うことができる。
j	応用・展開力	電気・電子・情報通信工学分野の基礎・専門知識を応用・展開するために必要な基礎・専門知識を理解できていない。	0と1の間	電気・電子・情報通信工学分野の基礎・専門知識を応用・展開するために必要な基礎・専門知識を概ね理解できている。	1と2の間	電気・電子・情報通信工学分野の基礎・専門知識を理解し、応用・展開することができる。	2と3の間	電気・電子・情報通信工学分野の基礎・専門知識を展開・応用する基礎・専門知識を理解・活用し、応用・展開することができる。

評価項目		ループリックによるレベル評価						
記号	名称	0	0.5	1	1.5	2	2.5	3
a	経営工学基礎学力（全般）	目標Aに対する取り込みが不十分。	0と1の間	目標Aの達成レベルに到達してない	1と2の間	目標Aの達成レベルに達した。	2と3の間	目標Aの達成レベルに十分達している。
b	経営工学基礎学力（数学）	目標Bに対する取り込みが不十分。	0と1の間	目標Bの達成レベルに到達してない。	1と2の間	目標Bの達成レベルに達した。	2と3の間	目標Bの達成レベルに十分達している。
c	経営工学関連基礎学力	目標Cに対する取り込みが不十分。	0と1の間	目標Cの達成レベルに到達してない	1と2の間	目標Cの達成レベルに達した。	2と3の間	目標Cの達成レベルに十分達している。
d	情報処理能力	目標Dに対する取り込みが不十分。	0と1の間	目標Dの達成レベルに到達してない	1と2の間	目標Dの達成レベルに達した。	2と3の間	目標Dの達成レベルに十分達している。
e	データ解析能力	目標Eに対する取り込みが不十分。	0と1の間	目標Eの達成レベルに到達してない	1と2の間	目標Eの達成レベルに達した。	2と3の間	目標Eの達成レベルに十分達している。
f	プレゼンテーション能力	目標Fに対する取り込みが不十分。	0と1の間	目標Fの達成レベルに到達してない	1と2の間	目標Fの達成レベルに達した。	2と3の間	目標Fの達成レベルに十分達している。
g	経営工学応用能力	目標Gに対する取り込みが不十分。	0と1の間	目標Gの達成レベルに到達してない	1と2の間	目標Gの達成レベルに達した。	2と3の間	目標Gの達成レベルに十分達している。
h	教養学力	目標Hに対する取り込みが不十分。	0と1の間	目標Hの達成レベルに到達してない	1と2の間	目標Hの達成レベルに達した。	2と3の間	目標Hの達成レベルに十分達している。
i	外国語能力	目標Iに対する取り込みが不十分。	0と1の間	目標Iの達成レベルに到達してない	1と2の間	目標Iの達成レベルに達した。	2と3の間	目標Iの達成レベルに十分達している。
j	問題解決能力	目標Jに対する取り込みが不十分。	0と1の間	目標Jの達成レベルに到達してない	1と2の間	目標Jの達成レベルに達した。	2と3の間	目標Jの達成レベルに十分達している。

評価項目		ループリックによるレベル評価						
記号	名称	0	0.5	1	1.5	2	2.5	3
a	一般教養・基礎学力	学習・教育目標Aに対する取組が不十分である。	0と1の間	学習・教育目標Aを達成できるレベルにない。	1と2の間	学習・教育目標Aを達成できるレベルにある。	2と3の間	学習・教育目標Aを十分に達成できるレベルにある。
b	機械力学専門能力	学習・教育目標Bに対する取組が不十分である。	0と1の間	学習・教育目標Bを達成できるレベルにない。	1と2の間	学習・教育目標Bを達成できるレベルにある。	2と3の間	学習・教育目標Bを十分に達成できるレベルにある。
c	材料力学専門能力	学習・教育目標Cに対する取組が不十分である。	0と1の間	学習・教育目標Cを達成できるレベルにない。	1と2の間	学習・教育目標Cを達成できるレベルにある。	2と3の間	学習・教育目標Cを十分に達成できるレベルにある。
d	熱力学専門能力	学習・教育目標Dに対する取組が不十分である。	0と1の間	学習・教育目標Dを達成できるレベルにない。	1と2の間	学習・教育目標Dを達成できるレベルにある。	2と3の間	学習・教育目標Dを十分に達成できるレベルにある。
e	流体力学専門能力	学習・教育目標Eに対する取組が不十分である。	0と1の間	学習・教育目標Eを達成できるレベルにない。	1と2の間	学習・教育目標Eを達成できるレベルにある。	2と3の間	学習・教育目標Eを十分に達成できるレベルにある。
f	設計工学・機械要素設計・トライボロジー専門能力	学習・教育目標Fに対する取組が不十分である。	0と1の間	学習・教育目標Fを達成できるレベルにない。	1と2の間	学習・教育目標Fを達成できるレベルにある。	2と3の間	学習・教育目標Fを十分に達成できるレベルにある。
g	生産工学・加工学専門能力	学習・教育目標Gに対する取組が不十分である。	0と1の間	学習・教育目標Gを達成できるレベルにない。	1と2の間	学習・教育目標Gを達成できるレベルにある。	2と3の間	学習・教育目標Gを十分に達成できるレベルにある。
h	計測制御・自動制御・ロボット工学専門能力	学習・教育目標Hに対する取組が不十分である。	0と1の間	学習・教育目標Hを達成できるレベルにない。	1と2の間	学習・教育目標Hを達成できるレベルにある。	2と3の間	学習・教育目標Hを十分に達成できるレベルにある。
i	機械材料学専門能力	学習・教育目標Iに対する取組が不十分である。	0と1の間	学習・教育目標Iを達成できるレベルにない。	1と2の間	学習・教育目標Iを達成できるレベルにある。	2と3の間	学習・教育目標Iを十分に達成できるレベルにある。
j	問題解決能力	学習・教育目標Jに対する取組が不十分である。	0と1の間	学習・教育目標Jを達成できるレベルにない。	1と2の間	学習・教育目標Jを達成できるレベルにある。	2と3の間	学習・教育目標Jを十分に達成できるレベルにある。
k	語学/コミュニケーション/国際的な視野/倫理	学習・教育目標Kに対する取組が不十分である。	0と1の間	学習・教育目標Kを達成できるレベルにない。	1と2の間	学習・教育目標Kを達成できるレベルにある。	2と3の間	学習・教育目標Kを十分に達成できるレベルにある。

評価項目		ルーブリックによるレベル評価						
記号	名称	0	0.5	1	1.5	2	2.5	3
a	基礎学力	目標Aへの取組みが不十分である。	0と1の間	目標Aの学力が伸びてきている。	1と2の間	目標Aを達成できるだけの学力をもつ。	2と3の間	目標Aを十分に達成できる。
b	専門分野の学力	目標Bへの取組みが不十分である。	0と1の間	目標Bの学力が伸びてきている。	1と2の間	目標Bを達成できるだけの学力をもつ。	2と3の間	目標Bを十分に達成できる。
c	実務課題の理解	目標Cへの取組みが不十分である。	0と1の間	目標Cの学力が伸びてきている。	1と2の間	目標Cを達成できるだけの学力をもつ。	2と3の間	目標Cを十分に達成できる。
d	技術者倫理	目標Dへの取組みが不十分である。	0と1の間	目標Dの学力が伸びてきている。	1と2の間	目標Dを達成できるだけの学力をもつ。	2と3の間	目標Dを十分に達成できる。
e	多面的な素養	目標Eへの取組みが不十分である。	0と1の間	目標Eの学力が伸びてきている。	1と2の間	目標Eを達成できるだけの学力をもつ。	2と3の間	目標Eを十分に達成できる。
f	チーム力・デザイン能力	目標Fへの取組みが不十分である。	0と1の間	目標Fの学力が伸びてきている。	1と2の間	目標Fを達成できるだけの学力をもつ。	2と3の間	目標Fを十分に達成できる。
g	論理構成力	目標Gへの取組みが不十分である。	0と1の間	目標Gの学力が伸びてきている。	1と2の間	目標Gを達成できるだけの学力をもつ。	2と3の間	目標Gを十分に達成できる。